



22

【埼玉】加須市の遠藤加奈さん(34)が代表を務める遠藤農園では、米、野菜、果樹、養鶏のほか、6次産業化にも取り組んでいる。

代表に就任した。

農園がめざすのはロスを出さない「循環農業」。鶏ふんは畑の肥料として使い、収穫の一部は養鶏へとまわす。養鶏を始めたのも、せっかくなってきた野菜が規格外となり放置されるのを見ていられたから。

地域社会との連携も大事にしている。同市はイチジクの生産が多く、イチジクの加工品に取り組んだ。イ

加須市 遠藤 加奈さん

## ロス出さない循環農業めざす

### 6次産業化進め地域に貢献

チジクの形を残したまま、白ワインでじっくり煮込んだ「まるごといちじくゼリー」などはふるさと納税の返礼品にもなっている。このほか、採れた卵を「おぼろ月」の名で販売している。主に米を与えて育てることで、黄身の色が優しい春の月の色を思わせたことが名前の由来。

卵特有のにおいが抑えられ、さっぱりしているのにクリーミーと人気だ。現在は平飼い鶏舎での飼育だが、将来的には放牧飼



遠藤加奈さんと父親の益男さん

育も検討している。「生産者として、鶏のストレスを減らしたい。そうすることで、おいしい卵を産んでくれる」と加奈さん。今後は、卵のブランド化も進めるといふ。加奈さんは「地域のために、何ができるかをいつも考えてます。若い力で地域の農業を支えたい」と笑顔で話す。